

個別支援学級 生活単元学習の実践

1 単元名 「わくわくフェスタでお店を開こう」 (全34時間)

2 単元目標

単
元
目
標

○わくわくフェスタでのお店のイメージを膨らませて、みんなでお店を開くためにやるべきことを考えることができる。

○友だちと話し合う活動の中で、自分なりの考えを持ったり、友だちの考えを聞いたりすることができる。

○お店を開くという目標に向かって話し合いをしたり、準備をしたりする活動を通して、みんなで協力して創り上げていく楽しさを味わう。

○友だちと協力して話し合いを進めたり、準備などの活動をしたりすることができる。

3 「ひびきあう三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」

手立て・・・子どもの願いや思いの育ちを見とった単元構想と授業作り

ブロックテーマ「感じる心、気持ちを伝える自分」

<聴く・話すについての実態と指導>

4月から様々な場面で小さなことでもみんなで決めてきた。自分の意見を出したり、意思表示をしたりすることで話し合いに参加するという経験を重ねてきた。最初の頃は、何について話し合っているのか理解できず、意思表示ができなかった児童も「みんなで決める」ことを繰り返していくうちに、少しずつ自分の意思を表すことができるようになってきた。また、個学の「話す・聴くルール」として、話し手を見る・最後まで聴く・みんなの方を向いて話す・みんなに伝わるように話す・考えにできるだけ理由をつけることを大切にしてきた。それぞれの考えを聞きながら、話し合いを進めるうちに、一生懸命に話す子の話を最後まで聞こうとする姿、友だちの意見を聞いて、自分の考えを変えたり、友だちの良い考えを取り入れようとしたりする姿が見られるようになってきた。また、上学年の子が話す姿を見て、話の内容が分からなくても自分の意見を伝えたいという思いを持って話す下学年の姿も見られるようになった。

ただ、自分の思いに固執し、人の意見を受け止めきれないため、決まった意見に納得できずに自己主張を言い続けたり、言いたい時に指してもらえないため苛立ってしまったりする子もいる。そのため話し合いの約束カードを個別に作り、指導をしていく中で本人とどのように話し合いに参加すると良いかを相談しながら進めている。

<個学の中での関わり合い・ひびきあい>

今年度の生活単元学習では、最初に何をやりたいかを相談した時に「お店屋さんをやりたい」という思いが子どもたちから出てきた。昨年までに経験した「お店屋さんごっこ」や梅ジャムをお家の人や先生に売る経験をしている児童からの提案だった。子どもたちは、自分たちの経験を生かして意見を伝えることがある。それは、聞いている友だちも同じ経験をしているため、イメージが伝わりやすいのだと思う。また、今までの話し合いの中で自分の意見を伝えると、友だちが受け止めてくれることやみんなで協力すると楽しくなるということを経験してきている。

下学年の子は、自分なりの表現方法で思いを伝えようとし、聴いている児童も何を言おうとしているのか受け止めながら、聴いている。上学年の子は、今までの生活経験をもとに下学年の子に分かるように伝えようとしている姿が見られるようになってきている。

4 単元と指導

① 単元について

本単元では、「お店を開きたい」という子どもたちの思いを確かめながら、話し合いを進めてきた。お店屋さんごっこはしたことがあるが、知っている人たちの中だけでの関わりだ。しかし、今回は「いろいろな人たちがお客さんになってほしい」「友だちにも買ってもらいたい」という発言からみんなが「いろいろな人と関わりたい」という思いを持っていることを感じた。また、お店を開くためには、様々な学習(お金の理解・接客対応・品物準備など)が必要になってくる。それらの学習を「お店を開きたい」という思いを成功させるために、いろいろな学習していくという見通しを子どもたちと確認して、この単元がスタートした。

②指導について

<単元における指導観・願い>

生活単元学習では、生活に根ざした学習を取り入れてきている。生活経験や発達年齢が違う子どもたちにとってお店に対してのイメージは一人ひとり違うが、PTA主催で毎年行われる「わくわくフェスタ」は、どの子どもも参加したことのあるイベントである。そのため、一人ひとりがイメージするお店が、共通の土台となっている。自分たちもそのお店の1つとして、参加できるということでわくわくしている子がいる反面、面倒くさいと思っている子や店員になるということが分かっていない子もいる。9月から本格的に話し合いや準備をスタートし、お店の名前や値段を話し合ったり、お店に必要な物を相談したりする中で、だんだんと自分たちのお店のイメージが持てきたり、お客さんのことを考えた発言したりするなど、一人ひとりが真剣に考えている様子が少しずつ見られるようになってきた。そして、自分たちの思いの実現に向けて一人ひとりが考えて、意見を伝えたり、友だちの意見を聞いて自分なりに考えたりすることができる姿を大切にしていきたい。

また、自分たちが楽しいという満足だけでなく、相手（お客さん）の気持ちを考えるなどの相手を意識した言動を学ぶ機会と考え、子どもたちに投げかけていきたい。

<ひびき合いについて>

毎回、話し合いでは、この時間に話し合うことを明確にしてきた。しかし、子どもたちの発言や話では、聞いているみんなに伝わりにくいことも多い。そこで、聞いている子の表情を見ながら、子どもたちの話を分かりやすい言葉で再度伝えたり、具体的に絵や図に表したり、実際の物を見せたりするなどイメージを持ちやすくしながら話し合い活動を進めるようにしたい。話し合いの内容を理解したり、イメージをもったり膨らませたりすることが得意ではない子どもたちであるので、具体的な物を見せるなど視覚的な支援や活動を取り入れたい。活動の中では、友だちの動きや言葉を見て、良いところを見つけ、真似ることも大切にしたい。初めてのことに不安がある子もいるので、友だちのやり方やがんばる姿を見て自分からやってみようとする気持ちをもつこともひびきあう姿としたい。さらに、友だち同士で声をかけたり、助け合ったりする姿につながってほしいと思う。

5 単元構想

単元構想 個学 生活単元 単元名 「わくわくフェスタでお店を開こう」(生活単元19 総合2 時間)

単元のねらい

- わくわくフェスタでのお店のイメージを膨らませて、みんなでお店を開くためにやるべきことを考えることができる。
- 友だちと話し合う活動の中で、自分なりの考えを持ったり、友だちの考えを聞いたりすることができる。
- お店を開くという目標に向かって話し合いをしたり、準備をしたりする活動を通して、みんなで協力して創り上げていく楽しさを味わう。
- 友だちと協力して話し合いを進めたり、準備などの活動をしたりすることができる。

今年はどうなことをしようかな？

- ・野菜を育てたい！
- ・お別れ遠足に行きたい。
- ・お誕生会・お別れ会をしたい。
- ・お店屋さんをやりたい。

- ・前にやったお店屋さんごっこみたいにお店をやりたい。今度は本当のお金を使って、お店をやりたい。
- ・いろいろな人たちに来てもらいたい。買ってもらいたい。
- ・お店で「いらっしゃいませ。」を言いたい。
- ・〇〇屋さんをやりたい。自分たちで、お店をやってみたい。

話し合ったことが積み重ねるように、児童の考えを記録したものを用意する。

どんな人たちに来てもらいたいのかな。

- ・お家の人や先生たち
- ・学校の友だち
- ・地域の人
(知っている人も知らない人も・・・)

いろいろな人に来てもらうためには、わくわくフェスタでお店をだしたらどうかな？

- ・はずかしい。
- ・おつりが渡せるか心配。
- ・自分もわくわくフェスタで遊びたい。

- ・おつりを渡す練習やよびかけの練習をすれば、恥ずかしくなくなるんじゃないかな。
- ・みんなで分担すれば、わくわくフェスタも楽しめる。

どんなお店にしたいかな。②

- ・お客さんが喜ぶお店
- ・にこにこしてもらえるお店
- ・楽しいお店
- ・おもしろいお店

わくわくフェスタでお店を開こう！

話し合いの際には、個学の「聞く・話す」ルールをもとに行えるように声をかける。

お店を開くために何をしたら良いかを話し合おう ③

どんな品物売るか 決めよう。③	品物の値段を 決めよう②	お店の名前を 決めよう②	看板やレジ、品物の札を みんなで相談して作ろう⑤	役割分担を相 談しよう②	お店の練習をしよう。(おつ りのやりとりなど)⑤
<ul style="list-style-type: none"> ・手作りの物にしよう。 ・アイロンビーズで作ろう。 ・牛乳パックでもできるかな？難しいな。 ・タワシを作った学校の先生に作り方を聞こう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・20円？30円？50円？ ・高すぎると、売れないね。お客さんが喜んで買ってくれる金額にしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お客さんがにこにこしてほしいから、「にこにこショップ」っていうのはどうかな。 ・みんなが笑顔になると良いね 	<ul style="list-style-type: none"> ・看板は、上につけたいな。 ・レジは、お金を入れるところを分けよう。 ・品物札は、お客さんに分かるようにしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レジ係がいるね。 ・呼び込みもしたらいいね。商品補充はだれがやる？ ・袋に詰める人もいるね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おつりが出せるか心配。練習しないとね。

みんなで相談したことを元に、準備や練習をしよう。⑥

友だちと話し合う活動の中で、友だちの考えを聞き、自分なりの考えを持ったり、伝えたりすることができる。<評>

みんなに伝えるときには、できるだけ理由も考えさせ、一緒に言えるようにする。

品物作り	看板作り	品物の札作り	レジ作り	お店の練習をしよう。 (おつりのやりとりなど)⑤(本時)
<ul style="list-style-type: none"> ・アイロンビーズでコースターみたいになったよ。 ・タワシが上手にできたよ ・キーホルダーができたよ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「にこにこショップ」がお客さんに分かるようにしよう。 ・みんなと協力して作ろう 	<ul style="list-style-type: none"> ・お客さんが、いくら分かるようにしよう。 ・品物が何か絵も描くと良いね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・金種で分けるようにしよう。 ・お客さんが分かるようにしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全部でいくらになるか分かるかな。 ・お釣りは、いくらになるかな。 ・お客さんになんと言えば良いかな。 ・どんな言葉をかけようかな。

グループでの作業が必要な場合は、メンバーの構成や担当職員を考慮して、グループングを行う。	お金の理解については、個人差があるので、一人ひとりの実態に合わせて、支援する。	グループで活動する時には、子ども同士で相談できるように促す。	お店のイメージがわくような場の設定をする。
--	---	--------------------------------	-----------------------

みんなで、協力してわくわくフェスタでお店を開こう！④

・お客さんが喜んでくれて、うれしいね。
・また、みんなと協力してやりたいね。

・みんなで協力したら、大変なことができたね。
・お店屋さんができてよかったね。

6. 本時について

(1) 本時目標 お店の仕事を体験したり、友だちの考えを聞いたりする中で、お店の仕事がどうするとより良くなるかを自分なりに考えることができる。

(2) 本時展開

学習活動	主な支援・留意点【評価】
<p style="text-align: center;">わくわくフェスタでお店を開こう</p> <p>○お店の準備でやってきたことを確認する。</p> <p>○お店の役割分担を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レジ → 品物の合計とお釣りの計算をして、お金をやりとりする。 ・袋詰め → 品物を袋に入れる。 ・呼び込み → 「いらっしゃいませ」と言う。 <p>○グループごとに役割分担を決めて、実際にお店の人になり、対応の仕方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼び込みは、「いらっしゃいませ」だけでなく、品物の説明ができるといいね。 ・レジは、「ありがとうございました。」と言いながら、渡すと良いのではないかな？ ・袋詰めは、どのタイミングで詰めれば良いのかな？ ・お釣りの計算が、すぐにできなくて困った時は、どうしよう。 ・緊張して、笑顔が少なかったから、にこにこした方が良いな。 <p>○次の時間にすることを確認する。</p>	<p>○前時までの活動を、全体で確認していく。</p> <p>○本時のめあてを確認する。</p> <p>○お店のイメージを一人ひとりが持てるように、具体物を用意して雰囲気を出す。</p> <p>○子ども達から出てきた意見は、それぞれ受け止めるようにする。また、自分から発言できない子、考えをつぶやいている子どもに声かけをして、安心して発言できるように促す。</p> <p>○個学の「話す・聞く」ルールをもとに行えるように教師・支援員が声かけをする。</p> <p>○初めての役割に戸惑ったり、困ったりしたこともみんなで共有して、どうしたらよいかを考えるようにする。</p> <p>○役割を見ている児童には、お客さんの気持ちになって、どうすれば良いかを考えさせたい。</p> <p>○子どもの聞き取りにくい言葉は、うまく補助して、みんなに伝わるようにする。</p> <p>○何を話し合っているか、分からなかった子には、側で分かりやすく説明するなど、一人ひとりに合った支援をしていく。</p> <p>◇友だちと活動したり、話し合ったりする中で、友だちの考えを聞いて自分なりの考えを持ったり、伝えたりすることができる。</p> <p>【評価】</p>

7 実践を終えて

<子どもたちと単元を作る>

生活単元学習の中では、自分の思いを持ち、みんなに伝えることを大切にしてきた。それを実現できた達成感が、「今年は、こんなことをやってみたい。」という子どもたちの思いにつながっているということを感じる。毎年、同じことを繰り返すのではなく、今年はどんなことに興味を持っているのか、どんなことに取り組みたいと思っているのかを話し合いの中から探っていく。そして、それを実現するために様々な視点から話し合えるように時には教師が「本当に大丈夫？」と揺さぶったり、反対意見の友だちの理由を元にみんなで考える場を設けたりすることで子どもたちの思いがはっきりと明確になり、1つの強い気持ちになっていった。

単元を作っていく中で、子どもたちの思いをどのように受け止め、次につなげていくかが大切になってくる。そして、子どもたちの思いのままに活動していくのではなく、その活動によりどのような力をつけていきたいのかを考えてきた。実現させたい強い思いを持ってその課題に取り組むことで、子どもたちは「与えられた課題」から「思いを実現させるために乗り越える課題」となるだろう。その課題は一人ひとり違うが、同じ目的に向かってそれぞれが課題に取り組むことで、一体感が生まれ、互いを認め合う気持ちが生まれたのだと思う。

今回は「お店を開きたい」という思いがあったからこそ、様々な課題を自分たちの課題として捉えて考え、取り組むことができたのだと思う。

<子どもの解決したい課題>

「お店を開く」ためには、いろいろな課題を解決しなければ、実現できない。お金の学習（お金の種類・何円・おつり）やお客さんとのやりとり、お店の準備などの課題が出てきた。お金の学習では、一人ひとりの実態に合わせて学習を進めてきた。お店でのレジでは個々の学習を生かせるように、それぞれにあった支援をしてきた。しかし、緊張もあり、なかなかスムーズにおつりを出せない子もいた。そこで課題になったのは、お客さんにスムーズにおつりを渡すことだった。すると子どもたちからは、「早くおつりを出せるように、おつりの表を作った方が良い。」「下級生がレジの時は、上級生が助けてあげると良い。」というアイデアも出てきた。課題に対して、自分なりの視点を持ち、考えることができた。また、お客さんとの接客練習では、いつも同じ場合ではなく、想定外のことが起

こるということを経験させたいと思った。流れを確認した後に、毎回「こういう場合はどうする？」と子どもたちがその場をイメージして考えられるような場面を設定した。そうした場面を設定することにより、お店での接客がより具体的にイメージでき、お客さんのためにどうすれば良いかを考えることができるようになった。

<ひびき合い、子どもたちの変容>

最初から「お店を開きたい」と思っていた子もいたが、「恥ずかしい」「自分もお客さんになりたい」「おつりが渡せるか心配」という子にとっては、不安があったと思う。しかし、話し合いで他の子の意見を聞いたり、準備をしたりする中で、次第に活動に取り組む姿や表情が変容していくのを感じた。「恥ずかしい」と言っていた子が他の子のよびかけを真似して「いらっしゃいませ。」と呼びこむ姿。「お客さんになりたい。」と言っていた子に対し、「順番にお店の担当になればお客さんにもなれる。」という子どもたちの意見。「おつりが渡せるか心配。」と不安がっていた子に隣で声をかけて教える姿。子どもたち同士が「お店を開く」という1つの目的に向かって、互いに相手のことを考えて関わり合うことができたからこそ、子どもたちの気持ちや姿が変容していったのだと思う。その関わり合いこそが、ひびき合いにつながる土台を作っている。関わり合うことから学び、さらにひびき合いが生まれてくると思う。子どもたちの関わり合いの中から、多くのことを学ぶことができた。

<単元を通しての成果と課題>

「お店を開きたい」という子どもたちの願いからスタートした単元だったが、子どもたちの学びは多くあった。やりたい気持ちだけで実現するわけではなく、どうすれば良いのかを考えることができた。また、その中で学習しなければいけないこと、準備しなくてはならないことが多くあり、一人ひとりがその学習や活動に対してどのように気持ちを持って取り組まなければいけないのかを常に考えて学習を進めてきた。それは、お客さんのことである。お客さんのことを考え、合計やおつりの計算がスムーズになるように学習に取り組んだ。お客さんが分かりやすいように、品物札を作った。お客さんが買いやすいように、商品の説明をしたり、かごを準備したり、接客の仕方考えた。相手のことを考えることが苦手な子にとっては、相手のことを考えて行動するととても良い経験となった。

お店屋さんを開くため、様々な活動をしていく中で、子どもたちが一人ひとり考えを持って発言できるようになってきた。しかし、相手に伝わるような話し方や分かりやすく話すことは、まだ難しい。話し方には個人差があるが、見本になるような児童の話し方を意図的に取り上げ、みんなで意識して伝え合えるようにしていけると更に話し合い活動が活発になってくると思う。